

一 左記ノ諸君ノ退會ヲ認可スルコト

准員 南部光臣君 貴志一郎君 木村陽二君

一 左記ノ寄附品ヲ受領スルコト

釀酒新報 二冊 宇都宮三郎君

征清誌抄(圖添) 一冊 杉山 輯吉君

一 博文社ノ申込ニヨリ同社發行ノ太陽雜誌ト工學會誌トノ交換ヲ承諾スルコト

一 二月通常會ニテ規則改正ノ件ヲ議スルタメ正員會ヲ開クコト

論說及報告

橫濱鐵棧橋

理學士 三田善太郎

橫濱鐵棧橋ハ橫濱築港工事中ノ一工事ニシテ其位置ハ同港西波戶場地先海面ニアリ此位置タルヤ水深ノ部分ニ近邇シ又實際一船ノ便宜ヲ有シ且稅關ニ隣接シ鐵道ヲ去ル亦遠カラズ經濟上ヨリ論スルモ五百十八呎ノ長サタケハ其陸端ニ於テ現今ノ波戶場幾部分ハ變更セシモヲ使用スルヲ得ルノ益アリ若東波戶場ヨリ突出セシムルキハ前記位置ヨリ一層容易ニ水深ノ處ニ達シ得ヘキハ疑ナシト雖モ西波戶場ニ比スレハ稍々市ノ中心ヲ外レ且東南沙洲ニ近接スルカ故ニ棧橋ノ東側ニ出入スル船舶ノ運動ニ便利ヲ缺クノ恐レアリ以上ノ利害ヲ較量シテ以テ前記ノ位置ヲ定メタリ

鐵橋ハ鐵橋五十呎前部三百四十五呎後部千五百呎ヨリ成リ總計千八百九十五呎ニ及フ今左ニ其構造ヲ揭ケン

鐵橋

鐵橋ハ棧橋ノ陸端ニ於テ小船ノ通過ニ便セン爲メ架設セシ所ナリ其中ハ三十九呎ニシテ内鐵道二十呎二吋車道九呎十吋各一筋及人道四呎二筋トス

鐵橋ハ三個ノハウトラツス形鐵桁ヨリ成立シ端柱ノ中心ヨリ中心マテ各々五十呎又鐵桁ノ中心ヨリ中心マテ其高五呎九吋ナリ三個ノ鐵桁タル其構造ニ於テハ同一ナルヲ以テ唯使用セル材料ノ分量ニ於テノミ差異アルモノトス

梁ハ鐵道及車道ニ方ルモノI形鐵高十八吋巾十呎人道ニ係ルモノL形鐵高三吋巾三吋ニシテ共二十一通リナリ

桁ハ人道ニハ六吋I形鐵三通リ車道ニハ六吋I形鐵六通リヲ用ヒ其鐵道ニ於ケルモノハ十吋I形鐵四通リトナセリ

橫面斜柱ハ二個ノ一時八分ノ一圓鐵ヨリ成ルモノニシテ各其一端ニ於テハ一時八分ノ一緊釘ヲ入ルベキ一眼ヲ有ス又他ノ一端ニ於テハ直徑一時八分ノ五長五吋ノ螺絲ヲ設ケ轉扣金ヲ以テ二個ノ圓鐵ヲ緊密ニ締着スルノ用ニ供ス此斜柱材ハ鐵梁ノ下ニ入ルヘキモノトス

反ハ鐵桁ノ中央ニ於テ一時トス
橋板ハ檜木ニシテ鐵道ハ豎張リ厚四吋車道ハ橫張リ厚四吋左右人道ハ橫張リ厚二吋ナリ
鐵橋ハ一方石造橋臺ニ上架シ他ノ一方ハ鐵桁上ニ架設ス石造橋臺ハ棧橋陸端工事ノ一部分

ナルヲ以テ其構造ハ少ラク此處ニ之レヲ畧シ鐵杭ノ構造ニ及バン鐵杭ハ徑二十四吋ノ鐵管
三本建ニシテ東側ハ長四十二呎九吋中央ハ三十呎一時西側ハ三十五呎九吋ナリ
鐵杭ノ根ニハ螺旋鞋ヲ付シ土中ニ穿入セシム其刃ノ直徑ハ六呎厚サハ杭身ト接合部ニテ三
吋半ニシテ周圍ニ於テ一時ニテ尖ラシ其節ハ二十九吋旋轉ノ數ハ一ト四分ノ一ナリ鞋ハ其
端ヲ上部ハ平面ニシ杭身ノ挿口ヲ受クル爲メ深サ十二吋ノ凹口ヲ設ケ二個ノ楔鐵ヲ以テ該
挿口ニ楔着ス

三個ノ鐵杭ノ上ニハ横亘函桁ヲ置キ鐵橋ノ陸端ニハ轉子ヲ置ク構造圖面ノ如シ
鐵杭ノ間ニハ斜柱一組宛ヲ付ス斜柱一組一箇ノ中心環ヲ以テ繋ケル直徑一時二分ノ一ナル
四個ノ圓形鍛鐵柱ヨリ成リ鐵杭ノ頂蓋ト之レカ下部ニ於ケル抱鐵材トノ間ノ斜亘スルモノ
ナリ該圓柱ノ一端ニ於テハ頂蓋若クハ抱鐵材ニ接着ノ爲一時八分ノ一ノ緊釘ヲ受クルノ一
眼ヲ有シ他ノ一端ハ直徑一時八分ノ七ノ螺旋トナシ七吋ノ長サニ螺絲ヲ穿通シ之レニ二個
ノ螺旋止ヲ備ヘ以テ中心環ニ緊着ス環ハ鍛鐵製八角形環ニシテ廣サ四吋厚サ一時内徑十二
吋アリ且圓柱ヲ受クル爲メ四個ノ孔ヲ穿テリ

鐵橋

鐵橋ノ前部三百四十五呎ハ巾三十九呎ニシテ鐵杭ハ三本建二十二個杭ト杭トハ其距離ハ縱
横各十五呎トス杭ノ長サハ海底ノ深淺ニ因リテ均シカラス之ヲ列記スレハ

第一乃至第十個

四十七呎六吋

第十一乃至第二十个

五十呎

第二十一乃至第二十二側

五十圓呎

鐵杭ハ鑄鐵製外徑十二吋 A B C D 四種ノ片材ヲ接續シテ作ル所ナリ而シテ其長サニ長短ヲ生スルハ常ニ C 材ノ長サニ於テシテ其他ハ總ヘテ變更セザルモノトス杭ノ海底上ニアルモノハ何レモ突縁ヲ付シ繫釘ニテ緊着シ又其土中ニ入ルモノハ圖面ニ指示スル如ク楔鐵ニテ緊着ス鐵杭ノ上部ニハ各一個ノ頂蓋ヲ付ス此頂蓋ニ五種アリ第一通常外部第二通常内部第三特別外部 A 第四特別外部 B 第五特別内部是レナリ

第一通常外部ハ方形頂十八吋角厚サ一時半ノモノニシテ之ニ上部側面斜柱用ナル八分ノ七吋繫釘ヲ嵌込ムヘキ四個ノ孔ヲ穿チ又十八吋ノ上路橋梁用ナル八分ノ七吋繫釘ヲ入ルベキ四個ノ孔ヲ設ク又九十度ツヽノ距離ヲ有スル三個ノ二重突縁ヲ作り縱橫對角斜柱用ノ一時八分ノ一ナル繫釘取付ノ孔二個ヲ穿テリ

第二通常内部ハ上部側面斜柱取付ニ供スル孔八個ト十八吋ノ上路橋梁取付ノモノ四個及二重突縁四個ヲ有スルコトヲ除クノ外凡テ通常外部ト同一ナリ

第三特別外部 A ハ方形頂十八吋ニ十八吋ノモノニシテ厚サ一時半ナリ此材ハ上部側面斜柱取付ノ爲ニ二孔及十八吋ノ上路橋梁取付ニ充テ二孔ヲ有ス又二十四吋杭ヨリノ上部側面斜柱ハ其他ノモノヨリ一層下部ニアルヲ以テ丁形斜柱ニ取付ケンガ爲隅角ニ向キタル特別突縁一個ヲ鑄造ス此突縁ハ八分ノ七吋繫釘ニ適スル二個ノ孔ヲ有スルモノナリ

第四特別外部 B ハ特別外部 A ト其構造ヲ一ニセリ但特別突縁ノ位置ハ左右ノ別ニ從ヒ二者九十度ノ差ヲ有ス

第五特別内部モ亦其構造前者ニ均シ唯其異ナル所ハ九十度ノ距離ヲ有セル二個ノ突縁ヲ付シタルニ在リ突縁ニハ八分ノ七吋繫釘ノ爲メニ各二個ノ孔ヲ穿テリ

凡テ特別蓋ハ厚サ一吋距離二吋半ナル二重ノ突縁ヲ有シ、一吋八分ノ一ノ繫釘ヲ以テ縱横對角斜柱ヲ緊着ス而シテ通常外部鐵杭ノ游蓋ハ圓面ニ示ス如ク特別突縁數個ヲ有シ該材ノ下部ハ其下ナル杭ニ取付クル爲メ肩ヨリ端マテ其長九吋ノ間ハ精密ニ九吋半ノ直徑トナシ旋盤工ヲ施セリ

A管 此管ノ上端ハ其面ヲ平削シ長一呎丈ハ内側ヘ旋盤工ヲ施シ以テ游蓋ノ下端ヲ受ケ其下端ハ巾三吋厚サ一吋半ノ突縁ヲ有ス突縁ノ面ハ平削シテ厚サ一吋ノ支柱八個ヲ以テ支フ又下ナル鐵杭ト接合スヘキ爲メニ四分ノ一吋突出ノモノニシテ外徑十一吋ノ肩ヲ有ス突縁ニハ一吋繫釘ヲ取付ル爲メ八個ノ孔ヲ穿テリA管ハ游蓋ヲ取付ケタルハ九呎ノ長ヲ有ス

B管 此管ノ各端ニハA管ノ如キ突縁ヲ付ス蓋シ其上端ハ四分ノ一吋ノ突出ニ替フルニ承口ヲ以テシA管ノ突出ヲ受ク而シテ其實長ヲ九呎トス

C管 此管ノ上端ハB管ノ上端ト符合シ又其下端ハ下ナルD管ノ上端ニ於ル承口ニ挿入セシガ爲メ長一呎ノ間之ヲ九吋半ノ直徑トナシ旋盤工ヲ施シ且三吋四分ノ一ニ八分ノ七吋ナル楔鐵ヲ刺入ルヘキ穴ヲ設ケタリ

D管 ハ實長八呎全長九呎トス下端ニ於ケル一呎ハ施盤工ヲ施コセル挿口ニシテ其次ノD管ノ承口ニ接合スル爲メC管ノ下端ニ於ル如ク鑽穿ス上端ハ深サ十二吋ノ承口トシ其上ナルD管ノ挿口端ヲ受ケシメ而シテ之ニ嵌込ム挿口ニ於ケル孔ト符合スル孔ヲ穿テ楔鐵ヲ以

テ上下接續ノ用ニ供セリ

螺旋柱 及ノ直徑五呎厚サハ杭身ト接合スル所ニ於テ二吋半ニシテ周圍ニテ一時マテ尖ラ
 スモノトス筋ハ二十二吋旋轉ノ數ハ一ト四分ノ一ナリ上部ハ其面ヲ平削シ深サ十二吋ノ凹
 處ヲ作リD管ノ挿口ヲ受ケ其承口ニ於ル孔ト符合スヘキ孔ヲ穿チ楔鐵ヲ以テ之ヲ接續ス
 楔鐵ハ鋼鐵ヲ以テ之ヲ製ス長十二吋巾三吋四分ノ一厚八分ノ七吋ニシテ其兩端ハ之ヲ四角
 ニ切斷ス

鐵杭ノ上ニハ鐵梁ヲ架ス鐵梁ハ十八吋I形鐵ニシテ長一呎ニ付其重量六十六封度ナリ

斜柱ハ鍛鐵ヲ以テ之ヲ作ル其種類率ネ三アリ上部側面斜柱上部對角斜柱及下部對角斜柱即
 是ナリ

上部側面斜柱ハ頂蓋ヨリ頂蓋ニ架渡スルモノニシテ圖面ノ如ク五吋ニ三吋ニ八分ノ五吋ノ
 丁形鐵ナリ其兩端ニハ穴アリ八分ノ七吋繫釘ヲ以テ之ヲ頂蓋ノ上部ヘ取付ク

上部對角斜柱ハ直徑一時二分ノ一ナル圓形鍛鐵ニシテ其一端ハ一眼ヲ有シ以テ頂蓋ノ二重
 突縁若クハ杭ニ設ケタル下方ニ於ケル抱鐵材ノ間隙ニ適合シ且一時八分ノ一ノ繫釘ヲ受ク
 ヘク他ノ一端ハ一時八分ノ七直徑ノ螺旋ニシテ長七吋ニ涉リ螺絲ヲ付シ之ニ二個ノ螺旋止
 ヲ備ヘテ以テ中心環ニ取付ク中心環ハ八角ノ鍛鐵環ニシテ巾四吋厚サ一時内部ノ直徑十二
 吋ニシテ對角斜柱ヲ受クル爲四個ノ穴ヲ有セリ

下部對角斜柱ハ五吋ニ四吋ニ八分ノ五吋ノ丁形鐵二個ヲ背合セニ交叉シ鑄鐵抱鐵材ヲ以テ
 其交接部ヲ緊メタル者ナリ其兩端ハ一時一分ノ一繫釘ヲ以テ杭ニ取付タル抱鐵材ニ取付ク

支桿ハ五吋ニ三吋ニ八分ノ五吋ノモノヲ背合ニ銜接シタル二重丁形鐵ノモノニシテ其兩端ヲ鐵杭ノ抱鐵材ニ取付クルニハ一時八分ノ一緊釘ヲ以テセリ
 桁ハ檜材ヲ用ユ鐵梁ノ上ニ設置スル所ニシテ凡ソ十一通りアリ其四本ハ十四吋角ニシテ七本ハ高十四吋巾十二吋ナリ

鐵軌ハ二條ニシテ十四吋檜桁四本へ一個宛設置ス

橋板ハ巾六吋厚四吋ノ檜板ヲ以テ桁上ニ敷設ス左右人道ニ中ルモノハ密接ニ敷設シ中央ニ於テハ一時ノ間隔ヲ置ケリ橋橋ノ左右兩側ニハ鐵製欄干ヲ設ク柱材ハ鑄鐵欄干ハ鍛鐵ニシテ高サハ四呎ナリ

棧橋ノ後部ハ其兩側へ船舶ヲ繫留スルノ場所ニシテ巾六十二呎六吋長サ千五百呎トス鐵杭ハ五本建百〇一側ニ及ヒ杭間ノ距離ハ前部ノ分ニ同シ而シテ其長サヲ擧クレハ左ノ如シ

初メ	三十三側	五十四呎	次	十七側	五十八呎
次	十七側	五十五呎六吋	次	八側	六十呎
次	十七側	五十七呎	最終	九側	六十三呎

鐵杭鐵梁斜柱支桿等其物質構造總へテ前部ニ同シ

檜桁ハ十五通りニシテ内十本ハ十四吋角殘五本ハ巾十二吋高十四吋ナリ

橋板ハ前部ニ均シク之ヲ敷設ス而シテ左右人道ノ區別ナシ

鐵軌ハ四條ニシテ前後及中央ノ三ヶ所ニ運車臺ヲ置ク各二個以テ起重機及貨車ノ運行ニ便スルモノトス

築船器ハ鐵製長三呎巾二呎高二呎二吋ニシテ一時二分ノ一繫釘八本ヲ以テ十八吋鐵梁ニ取付ク其總數二十六ヶ所ナリ

防舷杭ニ使用セル杭材ハ檜及松ノ二種アリ防舷杭ハ一ヶ所ニ杭二本宛ヲ以テ之ヲ作ル上部ハ横木ヲ以テ鐵梁ヘ取付下部ハ鐵杭ヘ取付ク而シテ滿潮面上ヨリ干潮面下ニテ十呎間ハ黃銅板ヲ施コシ以テ腐蝕ノ豫防トス

防舷杭ハ側面ニ在ルモノ總數五十ヶ所ニシテ外ニ海端ニ於ケルモノ二ヶ所ナリトス
 棧橋上ニ建設セル電燈ハ十基ニシテ燈光ハヘリヲス弧光燈千五燈ノモノナリ

棧橋々臺ハ三面ノ石垣ヲ有ス東側ハ長百六十三呎前面四十二呎西側ハ初メ八十呎ノ設計ナリシモ横濱税關監視課廳舎新築ノ爲其幾部分ヲ除去セリ

石垣基礎ハ松杭長卅呎乃至五十呎ヲ前面及左右ノ三方ニ密接ニ打込ミ其内ヲ割栗石及砂利ニテ固メ其上ニ袋詰コンクリートヲ敷キ其上ニコンクリート塊ヲ積ミ干潮面上四呎ニ至ルニ同點ヨリ高九呎ノ間ヲ石垣工事トシ石材ハ在來使用セシ分ヲ用ヒ不足ノ分ハ相州堅石巾十呎厚二十吋長四呎ノモノニテ之ヲ補足セリ

石垣ノ合セ目ニハセメントモルターヲ使用シ横ノ合セ目ニハ之レニ加フルニ楔石六吋立方ヲ設置セリ

石垣ノ勾配ハ從前ノ石垣勾配ニ同シトス裏込ハ中割栗石ヲ以テ厚サ三呎ニ填充ス東側上陸階段基礎ハ松杭長二十五呎乃至三十呎ヲ密接ニ前面及左右ノ三方ニ打込ミ其内ノ海底泥土ヲ除キ砂利ニテ堅メ袋詰コンクリートヲ以テ高低ヲ平均シコンクリート塊ヲ積ミテ干潮面

ニ至ル

干潮面上ノ工事ハ石垣工事ニシテ石材ハ在來ノ石垣ヲ取崩シ其古石ヲ使用ス階段石ハ外面
二方及繼手二方ハ小タ、キ仕上トス土留石垣ノ繼手ハノミ切ニシテモルターヲ使用ス服詰
ハ土炭岩四分ノ三山砂利四分ノ一ヲ以テ高一呎毎ニ攜キ固ム

西側上陸階段ニシテ東側階段ニ異ナルモノハ其中央及左右ノ三ヶ所へ棧道ヲ設ケント階段
上部へ敷石巾六呎ヲ設置セルニアリ棧道ノ左右ニハ堅石一呎角長二呎六吋ニテ築立鼻石ハ
巾一呎厚一呎六吋長二呎六吋ヲ使用シ同石二個ニ付楔石一個ヲ設置ス又表面ニハ堅石巾一
呎厚八吋平長二呎六吋ヲ以テ敷込メリ

東側階段ノ南方ニ港事務所建物建築ノ爲メ巾九十三呎長百八十六呎ノ地所ヲ埋立東北二方
へ土留石垣ヲ築造ス埋立ハ土炭岩及山砂利ヲ凡ソ一呎厚ニ攜キ固メ滿潮面上二呎ニ至リ其
上ニ置土ヲ厚六吋毎ニ攜キ固メ埋立面ヨリ一呎下ニ至ル此上ニ小割栗石厚十吋ヲ敷キ其上
ニ山砂利厚四吋ヲ敷キ滿潮面上六呎四吋ニ至ル

棧橋陸端ノ全面ハ鐵道車道ノ二道ニ分テリ鐵道ハ棧橋々臺ヨリ旋車盤ニ至ル二線ニシテ長
延千〇五十六呎ナリ

鐵道上ニハ石造横亘路四ヶ所ヲ設置セリ鐵道線路ハ小割栗石九吋山砂利六吋ヲ敷キテ枕木
ノ基礎トセリ車道ハ巾十五呎乃至三十六呎ニシテ其構造ハ初メ小割栗石八吋半ヲ敷キ其上
ニ小砂利厚三吋ヲ敷キ込ミローラーニテ之ヲ堅メリ車道ノ一方ハ仕切石ヲ以テ鐵道ト界ヲ
ナシ他ノ一方ニハ棧橋上ニ設置セシモノト同形ノ鐵製高欄ヲ設置セリ

鐵道

鐵道ハ棧橋陸端ヨリ海岸ニ通過シ大岡川吐口ニ至リ同所ニ長百五十呎ノ鐵橋ヲ架設シテ内田町ニ至リ東海道鐵道線路ニ接續スルノ設計ナリシモノノ故障アリテ暫ク稅關構内ニ止ムル事トナレリ

稅關内ニ於テハ巾十間ノ埋立ヲ爲シ鐵道四條ヲ敷キ旋車盤二個ヲ設置シ以テ同關倉庫ヨリ鐵橋橋上ニ貨物ヲ運搬スルノ用ニ供セリ

鐵道築造方ハ棧橋陸端ノ方ニ同シキヲ以テ此處ニ之レカ説明ヲ略ス

擔任技術者

設計	英國陸軍工兵少將	エーチ、エスパーマー	助手	田中千松
監督	技師工學博士	石黒五十二	職工長	英國人 エーチ、エー、ジョンズ
主管	技師	三田善太郎	同	同 エフ、エーチ、バツグボールド
助手	技師	吉田英敏	同	同 ダブリウ、エス、ジョンソン
同	雇	柿沼仙次郎		

工事着手及竣工期

棧橋材料購入札 明治廿五年一月二十日

棧橋起工 明治廿五年十一月十二日

港事務所敷地埋立着手 明治廿二年九月十九日 竣工 明治廿七年三月卅一日

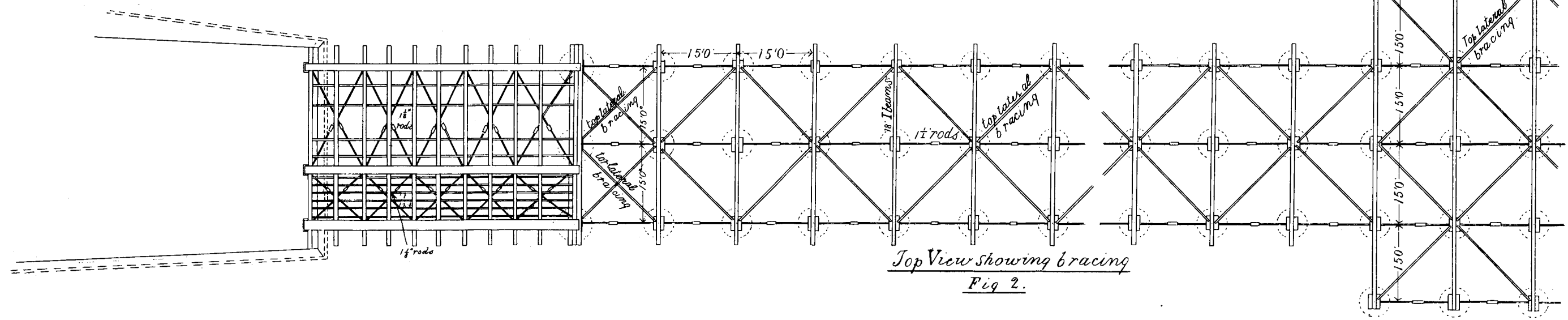
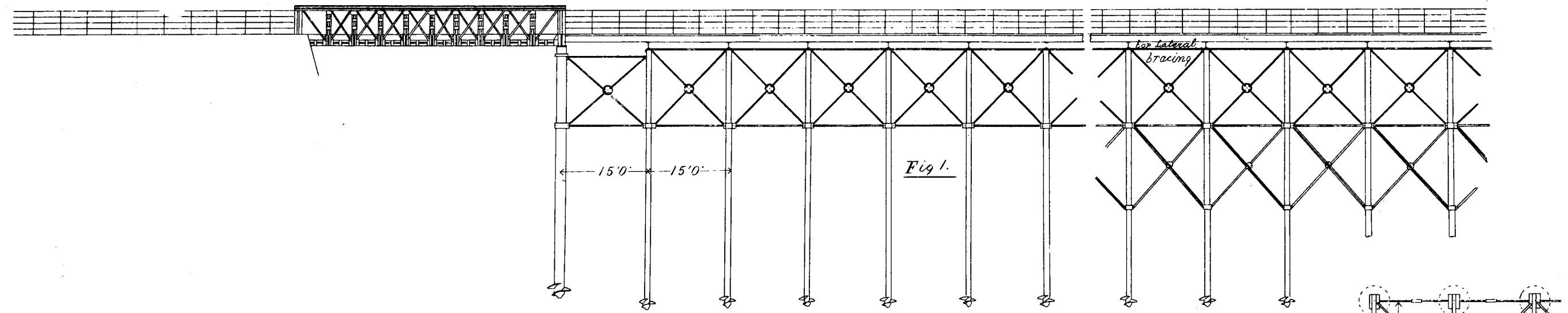
棧橋々臺着手 明治廿五年一月廿八日 竣工 同 年十一月十五日 同 年十月廿日

YOKOHAMA HARBOUR WORKS

IRON PIER

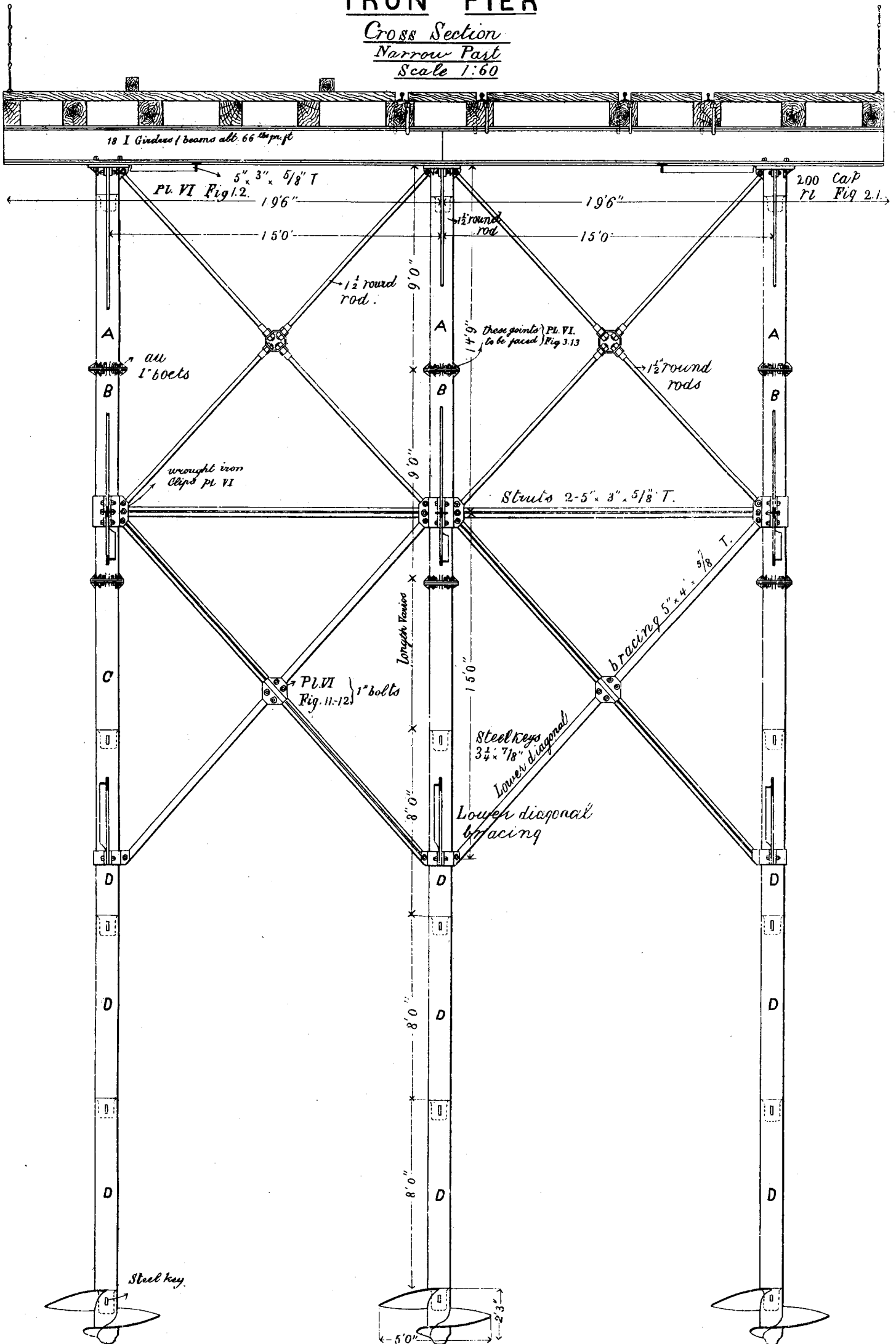
Side Elevation

Scale 1:240



IRON PIER

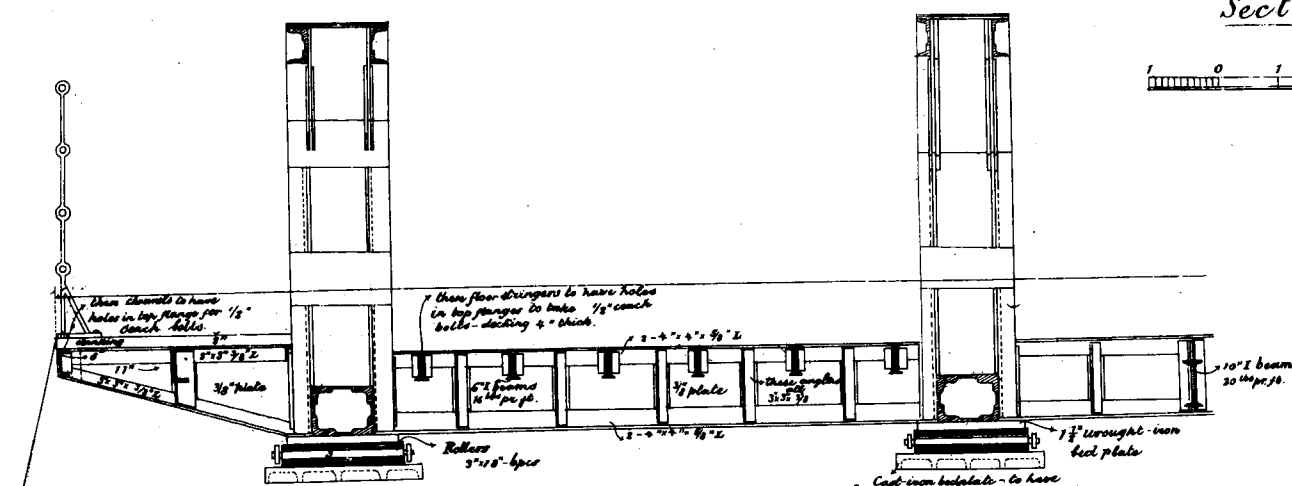
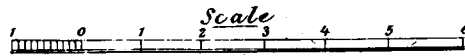
*Cross Section
Narrow Part
Scale 1:60*



YOKOHAMA HARBOUR WORKS

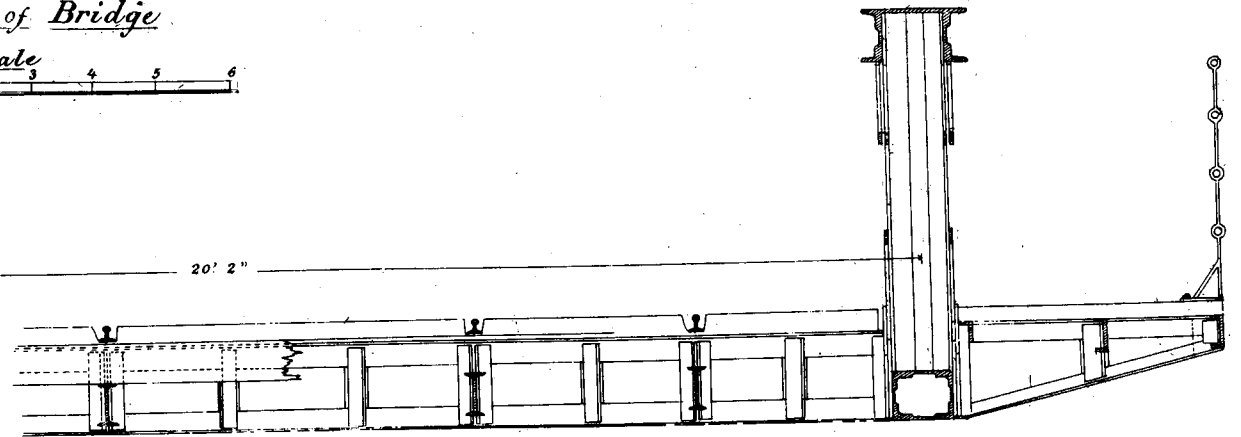
IRON PIER

Sections of Bridge



Section over Sand Abutment

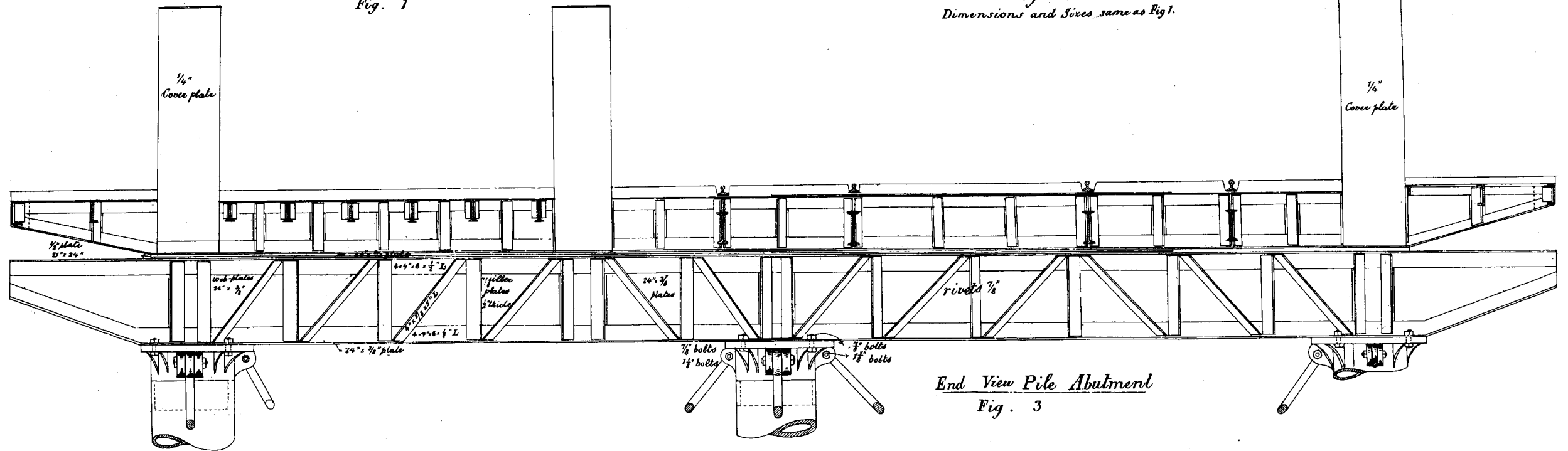
Fig. 1



Section through middle of Bridge

Fig. 2

Dimensions and Sizes same as Fig. 1.

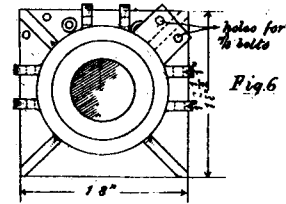
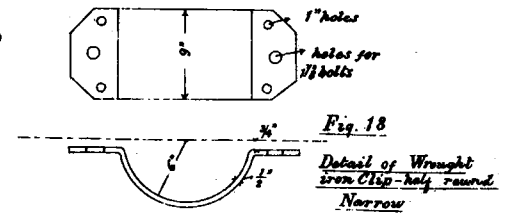
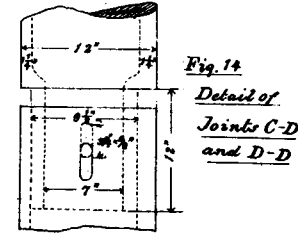
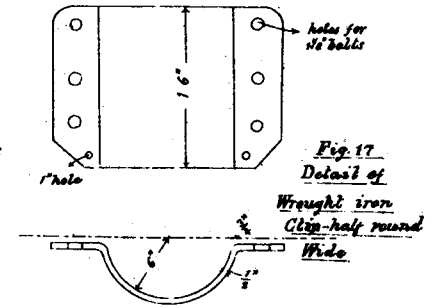
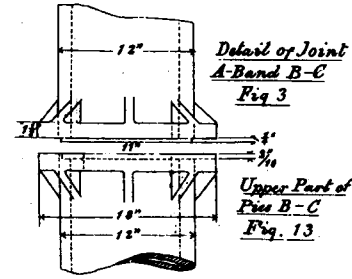
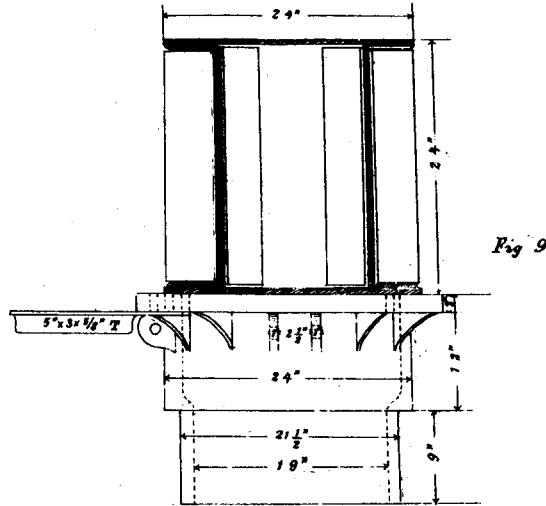
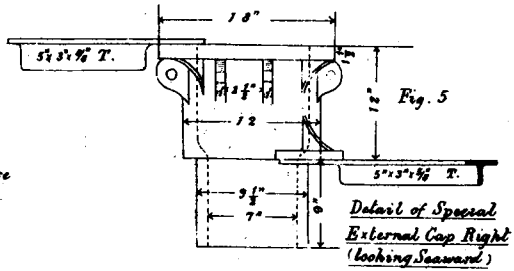
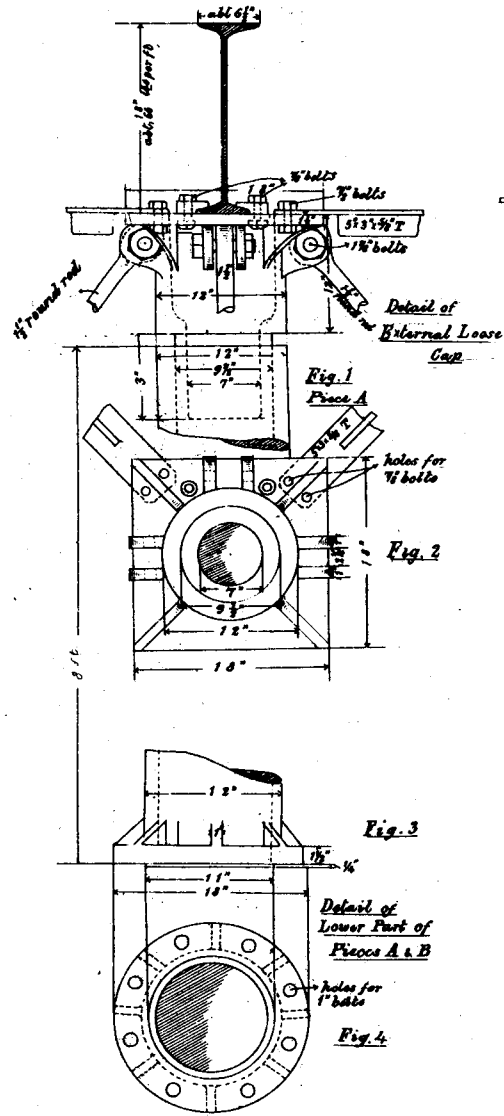


End View Pile Abutment

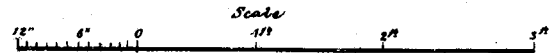
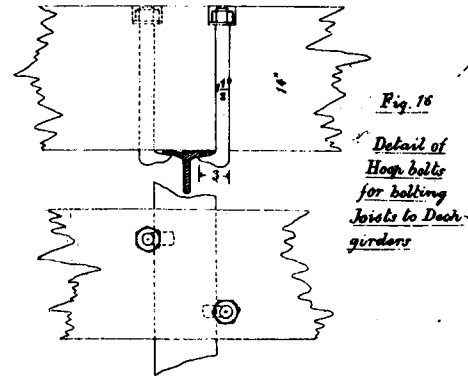
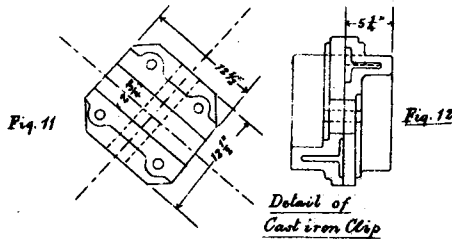
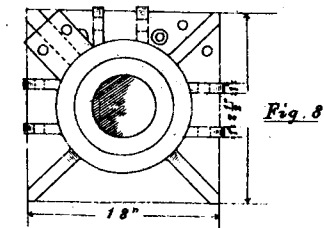
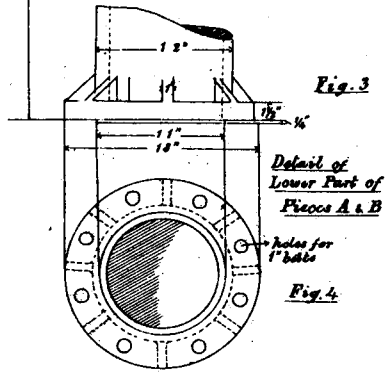
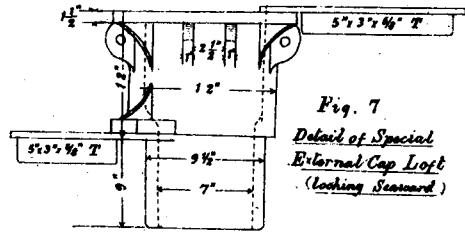
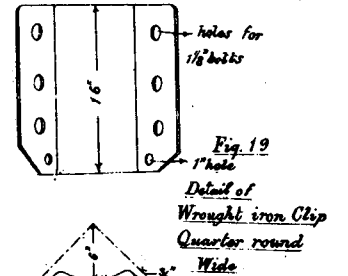
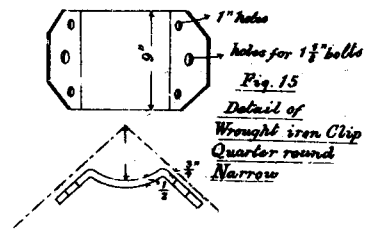
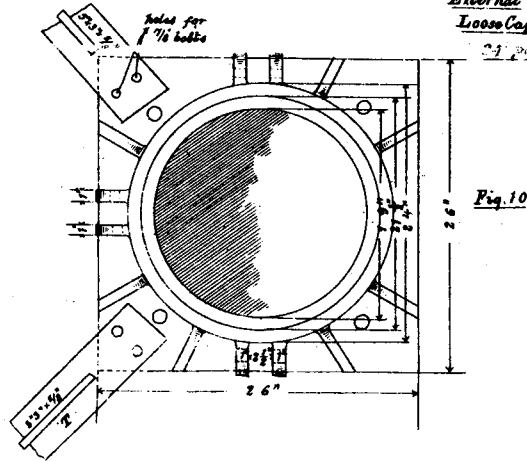
Fig. 3

YOKOHAMA HARBOUR WORKS

IRON PIER



Detail of External Loose Cap for 2 1/2 bolts



東側上陸階段着手	明治廿五年六月廿日	同	竣工	同	年十一月七日
西側上陸階段着手	明治廿六年四月八日	同	竣工	同	年七月三十日
鐵道着手	明治廿七年三月一日	同	竣工	同	年三月三十一日
車道着手	明治廿七年二月九日	同	竣工	同	年三月三十一日
旋車盤設置着手	明治廿七年一月十七日	同	竣工	同	年三月三十一日
稅關構內理立着手	明治廿六年十月十日	同	竣工	同	廿七年三月十四日
工 費					
棧橋架設工費	金二十八萬八千七百〇七圓十四錢三厘				
鐵橋架設工事	金五千六百五十九圓七十一錢八厘				
繫船用工事	金千二百四十五圓八十四錢				
防舷杭工事	金三千五百〇四圓七十七錢四厘				
浮標設置	金九千三百二十四圓				
電燈設置	金二千六百六十一圓				
足代工事	金一万千七百二十六圓六十七錢七厘				
橋臺築造工事	金五千四百三十三圓十一錢二厘				
車道工事	金六百九十一圓二十二錢五厘				
東側高欄工事	金七圓二十錢				
雇賃	金四百十五圓十一錢				

旋車盤工事

金千四百二十七圓九十五錢六厘

鐵帆布設工事

金一万千六百八十七圓十錢九厘

船賃

金九百六十圓二十六錢六厘

職工及人夫賃

金二万〇三百四十九圓八十九錢三厘

雜費

金一万〇六百七十圓四十一錢二厘

鐵道橫切工事

金八百六十七圓三十一錢六厘

請負工事

金一万千三百十六圓十錢五厘

殘材料

金六千六百六十七圓三十六錢三厘

合計

金三十九万三千三百二十二圓二十一錢九厘

朝鮮國實業一斑(二)

工學士 今井善一

水産事業ハ舊來區々小々ノ採取ニ止リ未タ以テ海中ノ天産ヲ廣ク採取シ一國經濟ノ一素源ト爲スノ方策ヲ講セシヲナカルヘシ抑該國沿岸ハ頗ル水産物ニ富メリ故ニ正當ノ漁業法ヲ之ニ施サハ必ヤ巨多ノ权利アルヘキモ當路者ノ不明ニシテ且漁業者ノ懦弱ナル巨大ノ权利アルニモ係ラズ平然傍觀シテ之ヲ顧ミサルハ眞ニ憾ムヘキヲ也然レモ該國民ニシテ稀レニ漁具ノ改良水産事業ノ發達ニ付テ意向ナキニシモ非ラサレドモ如何セン官吏ノ情弊資金ノ欠乏ニ障害セラル、ノミナラス兎角ニ姑息ニシテ一時ノ糊口策ニ止ルノミ之ニ反シテ本邦漁業者ノ狀況如何洋々タル波瀾ヲ帆走シテ全羅忠清ノ沿岸濟州嶋附近ニ出漁スルモノ其ノ